



「福澤育林友の会」ニュース

第20号 発行日2011年8月1日

福澤育林友の会
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190
<http://www.f-ikurin.jp>



「義塾の森と環境教育」

福澤育林友の会
会長 笠原 忠
(慶應義塾常任理事)



私は井田理事から引き継いで育林会、正式には、今年から発足しました「慶應義塾学校林」の担当となりました。「福澤育林友の会」は2001年に発足したということで、今年が丁度10年目になりますが、その母体である(財)福澤記念育林会は昭和40年の結成ですので、46年の歴史があります。これまで、育林会の皆様の支援により義塾の森が維持され育てられてきましたが、「福澤育林友の会」は毎年、「森を愛する人々の集い」を開催したり、全国各地にある学校林や慶應の森を訪ねる「研修会」などの活動をされて来られました。このような歴史のある(財)福澤記念育林会ですが、近年、公益事業活動としての継続が困難であり、また、新公益法人制度の改正に伴い、昨年来、井田理事のもとで種々検討した結果、本年3月で財団法人の解散に至ったわけです。ただし、160ヘクタール(48万坪)におよぶ義塾の森は慶應義塾学校林として、継承することになりました。慶應義塾としては、「人と樹を育てる」という理念から、広く社会と連携し、学生生徒の育林教育、環境研究の促進に、また慶應義塾の環境保護への貢献のために、積極的に学校林を活用すべきと考えています。実際、幼稚舎の生徒や高等学校、大学生が植林に参加していますが、森林を守る大切さや環境問題に興味をもつことは、福澤育林友の会が「義塾の森を広く教育の場として、また、交流の場として活用し、義塾として最も重視すべき人材育成に役立てる」との趣旨で、鳥居前々塾長により提唱され、現塾長に継承されてきた塾の精神と思っています。

日本は国土の66%、2/3は森林で、先進国の中でも有数の森林国です。私自身、栃木県北の出身で、近くには森と田園地帯が広がり、流れ豊かな川がありました。那須連峰とその裾野に広がる田園風景が私の原風景でもあります。林業は経済効率の低さや人手不足から、その維持と再生が困難な状況ですが、林業の復活は地域の再生にもつながりますし、また、林業と環境教育には深い関係があります。「林業が人手不足で厳しい状況にある今だからこそ、子どもたちに命のつながりと森林の大切さを教えるべきであり、そうすれば将来、子どもたちが成長して仕事を選ぶときに、林業や農業、水産業が選択肢に入り、森の再生や生物多様性の保全につながっていく」わけで、学校やメディアでの環境教育の重要性を改めて強調して行くことが必要と考えています。



6月25日(株)スマイルズ社長 遠山正道氏をお迎えして講演会が開催されました。

(株)スマイルズは全国に50店舗ほど展開しているスープストックトーキョー、セレクトリサイクルショップPASS THE BATON、ネクタイ専門ブランドgiraffeを経営しています。最近では店舗に国産材を使うことにも積極的に取り組んでおられます。

現代のニーズにあったオシャレな会社の誕生の経緯やこれまでの実績などお話ししてくださいましたが、一貫して遠山氏の経営者としての目線だけでなく、根底にある芸術家としての魂を感じました。

共感できる仲間が集まって、世の中に提供して共感してもらおう。自分の意思を大切に仕事を進めてこられた遠山氏の美意識を強く感じました。

1)低投資で好感度を出す 2)誠実 3)作品性 4)主体性 5)称賛
仕事をする上で常にこの5つを考えて行動なさるとのこと、新しい経営者の姿を生で見せていただいた気がしました。また個人が面白い時代になってきていて、人としての存在感が認められる時代になっているのではないかとおっしゃっていました。

不況といわれる時代が長く続く今日に気持ちのいい光が差し込んだようなお話に参加者皆、心が軽くなったような時間でした。

速水 紫乃



平成23年度「研修旅行」

2011.9.9(金)~11(日) 2泊3日

福澤育林友の会が発足し、今年で早10年が経過します。これを記念して今回の研修旅行は、2泊3日の『紀州和歌山「熊野古道&清水の森」を訪れる旅』を計画しました。

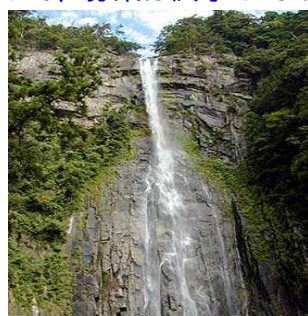
行先は、慶應の山林育成に絶大な貢献をしていただいている海瀬亀太郎様に寄贈いただきました和歌山県有田郡清水町の「清水の森」をはじめ、紀州和歌山の紀伊白浜、那智、龍神温泉、高野山などで、盛り沢山の研修旅行となっております。

また、1泊2日で参加を希望される方にも十分堪能できるスケジュールを組んでおります。

紀州の豊かな山・川・海をご覧くださいと共に、日本書紀にも登場する自然崇拝の地であった熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)へと通じる参詣道を散策しながら、大自然を満喫していただきます。

石畳の山道を歩きますので、ご参加の方は滑らない靴と簡単な雨具をご用意ください。

(*定員に達しましたので、募集は終了しております)



【海外留学支援報告】

「米国における環境CSR (Corporate Social Responsibility) 研究と環境ビジネス調査研究」

東京大学 大学院学際情報学府 岳 綾子 氏

当初の研究計画として、9月からカルフォルニア大学エクステンションにて講義を受ける予定で、3月下旬から語学研修を始め入学準備を行なっていました。7月下旬で一時帰国し9月上旬に再入国し、研究を再開する予定でしたが、家族に健康上の理由により、研究を中止せざるを得なくなりました。

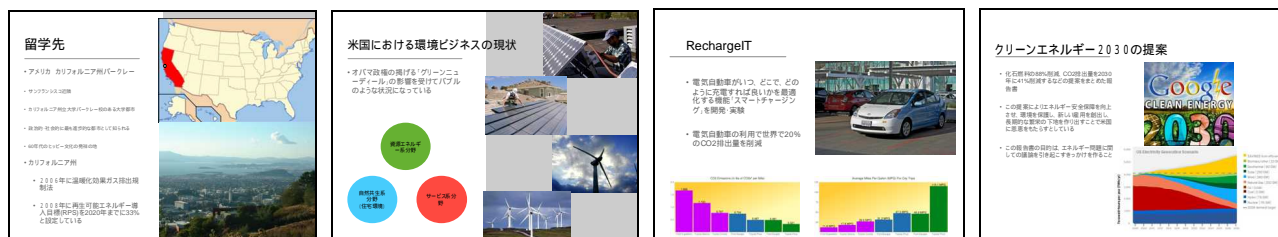
当初の計画に則って、興味ある分野、研究に関する分野の文献に目を通し、様々な分野から目をつけるといったやり方をしたため環境CSRや環境ビジネスに関する資料が完全に集められたとはいえない形になってしまいました。その後も語学学校の課題や試験などで4ヶ月をほとんど費やし、最後の2週間にワシントンDCの政府機関などで資料を集めました。ただ、その後8ヶ月間で調査を完結させるための事前調査にとどまり思ったような成果を出すことが出来ませんでした。

今後は、米国における環境CSRに関し、文献やホームページ等を通じて論文や調査を継続するだけでなく我が国やアジアの環境CSRなども調査し、国際比較研究を行ないたいと思っております。

留学の総評として、研究自体は散漫とした形にとどまってしまいましたが、個人的にはカルフォルニア州バークレー市という先進性に富んだ土地に住む人々や文化に触れ、日々の生活においても学びが多い留学生活となり充実した日々を過ごすことができました。また、留学したことによって多様な人種の友人ができ、協力し励ましあいながら留学生生活を過ごせたことはとても良い経験になりました。自分の将来や専門分野について、分野や背景の全く異なる友人達と相談し合い、お互い励ましあい、支えあった経験は忘れられません。

今後は、この留学経験を活かして、自身の博士論文をより多角的な分析に基づくより洗練されたものにしていきたいと考えております。

最後に、留学中止という残念な結果になってしまったことが悔やまれ、大変申し訳なく思いますが、短い期間でしたが私がこの度留学生生活を無事、円滑に過ごすことができたのも福澤記念育林基金の先生方及び事務の皆さんのご協力あってのことです。心より感謝しております。



【研究支援の活動報告】

「マングローブ生態系の成立と沿岸生態系との関係に関する研究」

東京農業大学 准教授 中西 康博 氏

熱帯・亜熱帯地域の沿岸や河口域に形成されるマングローブ生態系は、エビ、カニを始めとする海水産物や、良質の薪炭材等林産資源の豊かな供給源として、また、陸域とサンゴ礁海域等の生態系を結ぶインターフェイスの位置において、陸域から海域への過剰な栄養や土砂等の流出を抑制するバイオフィルターならびに風潮害を防御するバイオフエンスとして、自然生態系や人類生活にき

わめて重要な役割を果たしている。ところが世界のマングローブ面積は、1980～2000年の間に35%減少し、その傾向は未だに進行中である。今世紀には、自然生態系の複雑な相互関係をできるだけ解明・理解し、その生態系の中で人類社会の存続するすべを探求することが求められよう。マングローブ生態系による恩恵は、その生態系を正しく利用することによってのみもたらされる。

本研究は、そのような観点から、マングローブ生態系の成立とサンゴ礁等の沿岸生態系との関係を解明する研究の一貫として、マングローブ樹皮や葉中に生成されるタンニンを中心とするフェノール性物質の生態系、とりわけ栄養循環と植物連鎖における機能・役割を明らかにすることを目的として3つの研究で構成した。

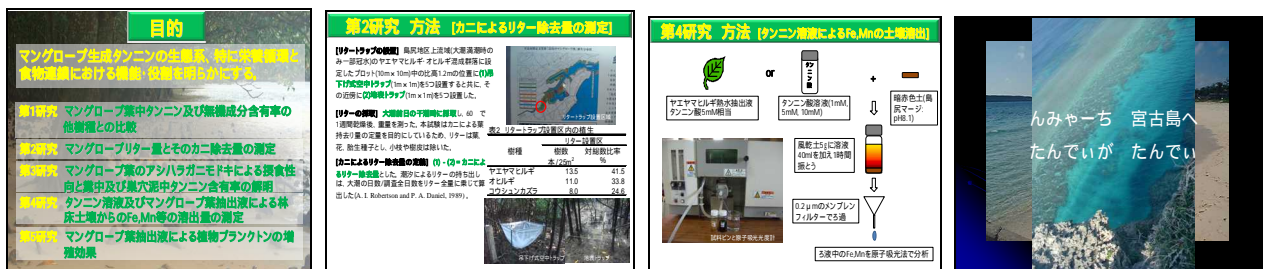
第1研究；マングローブ葉中のフェノールおよび無機栄養の定量と比較

第2研究；マングローブ林床におけるフェノールの分布

第3研究；マングローブ土壌におけるフェノールのはたらき

タンニン酸溶液による土壌からのFeとMnの溶出量は、対象区に比べ10倍以上多かった。タンニン酸による土壌からのFe溶出には、(1)有機錯化合物による水溶化あるいは(2)還元的溶解のいずれかに起因するものと考えられる。今回の報告ではそのメカニズムまでは言及できなかったが、タンニン酸の土壌培養が蒸留水培養に比べFeやMnを多量に溶出することは明らかであり、草地土壌のMnがタンニン酸で溶出されることを報告した小林氏の結果と一致した。マングローブ葉を巣穴に持ち込む習性があるアシハラガニモドキの巣穴内壁上層には黒色部分があり、そのフェノール含有率は黄色部分に比べ4.6倍高かった。この黒色部分の由来は、カニの糞もしくは葉の食べ粕であると推定される。黒色部分のフェノール含有率はタンニン酸5mMに相当するため、繰り返す干満や河川水により、この黒色部分からFeやMnが水域に溶出する可能性が示された。

残された課題は、カニの糞を用いたラボ試験を行い、土壌からFe、Mn溶出システムを検討したい。



平成22年度 福澤育林友の会 収支

会員；238名(内学生・生徒4名)

平成22年度	収入	支出	摘要	
前年度繰越金	581,766			会費の口座振替について 平成23年度会費の口座振替予定日は平成23年9月26日(月)を予定しています。
会費	5,000		H21年度会費(1名分)	
"	1,750,000		H22年度会費(196名分)	
"	50,000		H23年度会費(1名分)	
利息	235		普通預金利息	
寄附		2,000,000	(財)福澤記念育林会・育林事業への寄附	
通信費		36,000	会費引落案内通信費	
手数料		22,522	会費引落サービス手数料	
当年度収支	1,805,235	2,058,522		
次年度繰越金	328,479			